



# 徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念  
「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

令和6年1月

37号

## 新年のご挨拶 令和6年～混沌と変革の年に

令和6年は能登半島の大震災と羽田の航空機事故で年明けを迎えました。大きな自然災害と人為災害が続いて発生したわけですが、「どこか地球が怒っている」と感じざるを得ないのは私だけでしょうか。被災地で苦難にめげずに立ち向かう人々の姿を見ると人間の強さ、底力を思い知る気がします。こういう時こそ国をあげた迅速で的確な支援が求められるところです。特に医療に関しては緊急支援だけでなく、都道府県単位での長期的な支援体制の確立が求められているように感じます。

世界に目を移せばウクライナ侵攻につづいて、中東での戦争の悲劇に心が痛むところです。命の大切さを忘れた人間の愚かさばかりが目につきますが、東アジアでもいつ何がおこっても不思議でない状況が続いていると思います。私自身は団塊の世代であり戦争は経験していませんが、こどもの頃には両親や近所の人たちから戦争の話を何度も聞かされて育ちました。自宅近くの堤防にあった防空壕も今は埋められ、戦争の恐ろしさを語ってくれる大人もいなくなったようです。

さて新型コロナウイルスはようやく収束の兆しが見えてきました。徳島市民病院も何とか通常診療を取り戻しつつありますが、長きにわたる職員の皆さんの忍耐とご努力のおかげと感謝いたします。これから本院の理念である「思いやり・信頼・安心」を大切に、本来の役割である急性期医療をさらに充実・発展させていく必要があります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。当院病棟で神々しい初日の出を拝し、穏やかな気持ちで元旦を迎えたと思いきや、石川県の能登半島地震や羽田空港での日本航空と海上保安庁の航空機事故というビッグニュースで一変しました。

昨年は3年以上続いた新型コロナウイルスの感染拡大がある程度落ち着き、感染症法上5類に分類されてからは、当院もようやく通常業務に戻つつあります。今後も新興感染症の危惧があるかぎり、発生時には当院が公的病院としての役割・使命を担っていくべきであり、コロナ対策で培った知識をもとにチーム一丸となって機能できるものと確信しています。

私自身、昨年4月から病院長となり、より良い病院すなわち信頼される病院を目標に掲げて、職員とともに健全な病院運営に努めてまいりました。お陰様で病床稼働率の上昇や救急患者の受け入れ体制が改善するなど、少しずつ良い方向へ進んでいます。

今年は医師の働き方改革、診療報酬改定など大きな変革の年です。当院はこれからも地域の中核的な公立病院として、誰からも信頼され、スタッフがプライドをもって働くことのできる病院を目指したいと考えております。徳島の地域医療、救急医療を支えていくためには、連携医療機関の先生方のご理解とご協力が不可欠です。辰年である本年がさらなる飛躍の年となるように、徳島市民病院をよろしくお願いいたします。



病院事業管理者  
安井 夏生



市民病院長  
中野 俊次



## 消防局との意見交換会開催

11月22日、市民病院会議室において徳島市消防局との意見交換会が行われました。コロナ禍以前には定期開催となっていたもので、約3年ぶりの開催となります。

まずは市民病院側・救急隊側それぞれの現状について報告がありました。当院からは、病院の方針として救急対応を積極的に行っていくことを院長より説明後、医師数、施設規模等による受け入れ困難事例（特に夜間帯）を来していること、これについて大学病院への医師派遣を継続要請していること等をお伝えしました。消防局より参加いただいた6名からは、週末夜間対応に苦慮している件（受け入れ困難事案が集中している）や、あんしんカードを所持している患者の搬送基準について再度確認したい旨の発言等がありました。



会議冒頭、当院の現状を報告する宮本医師

参加者からの声として、救急搬送支援システムを用いた分散搬送の依頼や、3次救急搬送には対応困難との意見が



参加者からも様々な意見が述べられた

ありました。今回は問題提起のみで、具体的な解決策の検討までは難しい状況でしたが、約1時間にわたって双方の現状について情報共有ができた有意義な交換会となりました。

徳島市民病院 救急室は皆様のご協力のもと、できる限りの受け入れを行っていきたくと考えております。消防局との「顔が見える関係」を構築し、当院の理念の一つでもある「救急医療を含めた急性期医療と高度で専門性の高い医療」を提供していきたくと思っています。今後ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。（救急室 宮本 理司）

## 徳島DMAT隊員 認定

この度、令和5年12月23、24日に行われた徳島DMAT研修に参加し、無事徳島DMAT（ローカルDMAT）隊員となりました。災害医学に興味はあるものの、恐る恐るの参加でもありました。

厚生労働省下の日本DMAT隊員養成研修に準じた内容で、受講生は計33名。同班の受講生は、美波病院の本田院長率いる5人と私というメンバーでした。班付きの講師は当院の宮本DMAT隊長ほか2名であり、とても安心感がありました。しかし、研修内容は普段触れることのないトランシーバーやEMISの操作、経験したことのない「局地災害シミュレーション」等であり、総合演習は机上にて「被災病院における病院支援と受援」と、内容が非常に多く濃厚でした。最後には学びを実働で実践し、過酷でとにかく疲れましたが、災害という非常事態において限られた物資を最大限に活用して、救命する難しさややりがいを実感しました。

今回の研修を受講し、あらゆる災害を想定した院内災害訓練企画のご苦勞が理解でき、当院DMAT隊員の方々には感謝しております。今後私も訓練企画に携わり、後に日本DMAT隊員へ飛躍したいと思います。

（患者支援センター 長尾 由美）



机上にて病院支援のカリキュラムを受講



局地災害シミュレーション

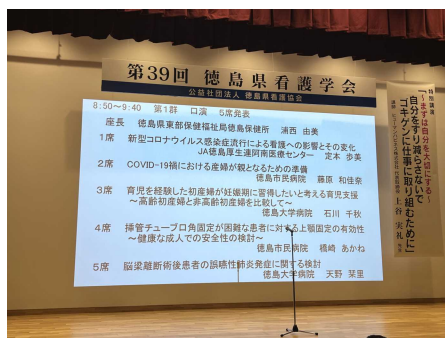
## 第39回 徳島県看護学会

12月9日、徳島大学 大塚講堂にて第39回 徳島県看護学会が開催されました。当学会は、県内の看護職に研究発表の場を提供し、実践に根ざした研究支援と看護職に求められる研究的態度の育成、看護の質向上等を目的に創設されたものです。市民病院からは3名が登壇し、口演発表を行いました。発表者と演題は以下のとおりです。

- 森本 美由樹さん「抗がん剤投与を受ける乳がん患者の末梢神経障害への対策  
～情報獲得状況と圧迫療法との関連～」
- 藤原 和佳奈さん「COVID-19禍における産婦が親となるための準備」
- 橋崎 あかねさん「挿管チューブ口角固定が困難な患者に対する上顎固定の有効性 ～健康な成人での安全性の検討～」

今年度は13演題の応募があり、口演9題、示説4題でした。当院は口演にて一番多く採択され、森看護協会会長からもお褒めの言葉をいただきました。3名の発表も立派で、貴重な経験になったと思います。今後の看護実践に活かしてくれることを期待しています。

(看護部 橋本 幸子)



会場となった大塚講堂にて



森本 美由樹看護師



藤原 和佳奈助産師



橋崎 あかね看護師

## 特殊詐欺被害防止キャンペーン

令和5年中の徳島県内の特殊詐欺被害は、被害認知件数72件、被害総額約4億5千万円となり、被害者の約6割(被害額では約7割)が65歳以上の高齢者です。ほとんどは自宅にかかってきた電話で騙され、被害にあっています。

このような状況を鑑み、徳島県警では令和5年12月27日、徳島市民病院 外来フロアで患者さんや来院者を対象とする特殊詐欺被害防止のキャンペーンを実施しました。詐欺の手口を紹介したり、詐欺電話を撃退する装置の効果などを説明するほか、ホールでのチラシ配布も行いました。詐欺電話を撃退する装置は県警で無償貸出しも行っていますので、必要な方は最寄りの警察署などに問い合わせをしてください。

キャンペーン終了後には、安井病院事業管理者に特殊詐欺被害防止の啓発動画を収めたDVDディスクをお渡ししました。待合ロビー設置のモニター等で放送していただくことで、被害予防の一助になればと思います。

(徳島県警察本部生活安全課 警部 谷崎 晴彦)



特殊詐欺に関するチラシを配布



電話を使用した詐欺の手口を解説



被害防止啓発動画を収めたDVDを授受

昨年12月、市民病院で行われた特殊詐欺被害防止の啓発活動について、徳島県警 谷崎警部にご寄稿いただきました。



## 徳大より実習生受け入れ

当院では1月9日から2月2日までの約4週間、徳島大学医学科より16名の実習生を受け入れています。

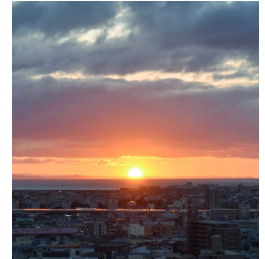
実習生の皆さんは、指導医について各診療科で診察や手術、検査等の見学・介助を行います。基本的な手技の経験、カンファレンスへの参加、患者さんとのコミュニケーション等を通じて、今後のキャリアプランを具体的に作成していくことになります。

市民病院では、2月13日から3月8日にかけても、新たな実習生を受け入れる予定です。 (広報管理室 竹内 明子)

## 初日の出 鑑賞会

1月1日、当院の11階病棟図書室にて「初日の出 鑑賞会」が4年ぶりに行われ、中野院長をはじめ職員、患者さんらが参加しました。

太陽が姿を現したのは午前7時7分です。言葉少なに見入る人、記念にと写真を撮る人など様々な新年の門出となりました。(総務管理課 松谷 健祐)



## 研修医日記

初期臨床研修医1年目の田上 陽菜と申します。徳島市民病院の研修医として、2年間お世話になります。

この場をお借りして少し自己紹介をさせていただきます。徳島県出身で富岡東中学校・高等学校に通っていました。卒業後は、住むのに丁度良い都会に出てみたいという思いから名古屋大学へ進学。軟式テニス部に所属して、ポジションは前衛で活動していました。テニスも飲み会も全力で楽しむ部でしたので、日が暮れてボールが見えなくなるまで練習したり、飲み会で盛り上がったりと、たくさんの思い出ができました。

一方で、コロナ禍のために大会が中止になったり、部員と集まるのもままならなくなるなど、思うように活動できず寂しい思いもしました。これからは先生方やコメディカルの皆さんと、院内外でお話する機会がたくさんあると嬉しいです。また、引退以降は運動不足を痛感しており、またテニスを再開できたらと思っています。

4月の初期研修開始から約9ヶ月が経過しました。自分の未熟さを痛感する日々です。右も左も分からない状態で、皆さんにご迷惑をおかけすることが多々ありますが、丁寧なご指導のおかげで楽しくのびのびと研修をさせていただいております。様々な職種の皆さんから優しく声をかけていただけるアットホームな雰囲気にとっても助けられており、感謝の気持ちでいっぱいです。日々できることを増やしていければと思っており、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いたします。

(初期臨床研修医 田上 陽菜)



研修医1年目の柴田 祥伍と申します。生まれも育ちも徳島で徳島市立高校、徳島大学出身です。研修医として働き始めて9ヶ月程で、わからないことだらけですが、毎日ご指導いただき、感謝しております。職場は凄く雰囲気がよく、市民病院を選んでよかったと心の底から思っています。1年目の研修医も7人と多く、日々切磋琢磨しています。

初期研修医の2年間では、救急外来の初期対応ができるようになりたいと思っています。何を重視して診察するのか、鑑別疾患を挙げながらどのような検査をするのか、という流れを確立させていきたいです。

仕事終わりにや休日には、筋トレやランニング、ボーリングをしたりと体を動かして日々ダイエット、体づくりに励んでいます。興味がある方とぜひ一緒にできればと思います。また、ラーメンや飲み会が大好きで消費カロリーvs摂取カロリーで拮抗する日々が続いています。トレーニングをサボってしまい、怠惰に過ごしてしまう日もあるため、だらしない身体になっていけば指摘していただきたいです。

学生の頃はよく東南アジアへ海外旅行に行っていました。おすすめはセブ島オスロブでのキャニオニングです。人生で一番と言っていいほど楽しく、興奮しました。

2年間の研修医生活、これからも初心を忘れず、謙虚に、積極的に頑張って参りますので、ぜひ宜しくお願いします。

(初期臨床研修医 柴田 祥伍)

